



SBS GROUP CSR REPORT 2012



SBSグループの経営理念

われわれの提案するサービスによって、

お客様に喜ばれ、株主に喜ばれ、

そして社員の幸せにつながる会社を目指す。

企業の永遠の繁栄は、人を大事にすることにある。

みなが生き生きと働くことが繁栄をもたらす。

社会的責任なくして企業の発展はあり得ない。

社会と共に生き、人々に喜ばれ、

広く内外社会の発展に貢献する。



編集方針

本報告書は、株主、お客様、従業員、取引先などの各ステークホルダーの皆様に、安全や環境などへのSBSグループの姿勢と取り組みについて、より理解を深めていただくために作成しました。わかりやすい表現を心がけ、簡潔・明瞭にご報告いたします。

- **対象組織**
SBSホールディングスならびに、グループ各社の活動実績を対象としています。
- **対象期間**
2011年4月1日～2012年3月31日
(一部対象期間外の活動も含みます)
- **参考にしたガイドライン**
「環境報告ガイドライン(2007年版)」(環境省)
「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006」(Global Reporting Initiative)
- **その他の情報提供手段**
本報告書は、SBSホールディングスのウェブサイトからもダウンロードできます。
(<http://www.sbs-group.co.jp/>)
- **発行年月**
2012年10月
- **次回発行**
2013年秋を予定
- **発行責任**
SBSホールディングス株式会社
IR・広報部 CSR・環境対策推進室
TEL:03-3829-2240/FAX:03-3829-2822

CONTENTS

SBSグループの概要 03

TOP MESSAGE 04

コーポレート・ガバナンス 05

安全への取り組み 07

環境への取り組み 13

社会とのかかわり 19

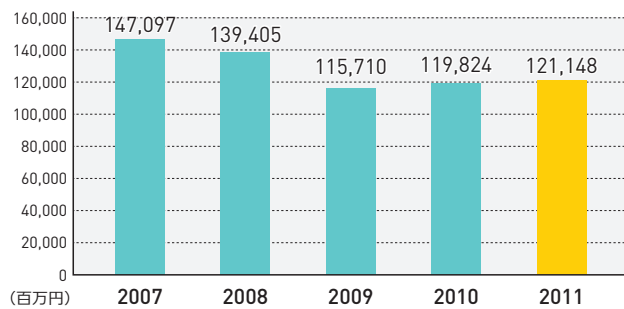
SBSグループの概要

SBSホールディングス株式会社

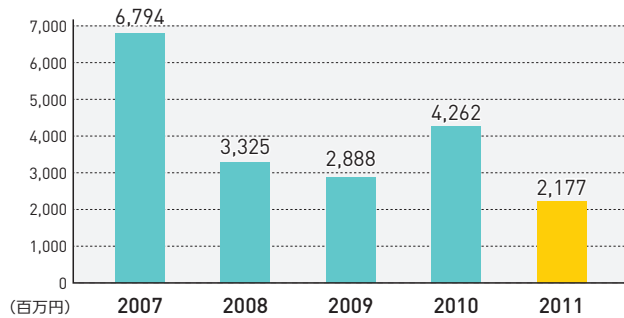
代表者… 代表取締役 鎌田正彦
 所在地… 〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3 オリナスタワー
 TEL … 03-3829-2222(大代表)
 FAX … 03-3829-2822
 設立… 1987年12月16日
 資本金… 38億3,393万円(2011年12月末現在)
 売上高… 1,211億円(2011年12月期 連結実績)
 従業員… 12,380名(うち正社員4,624名、2011年12月末、連結)

財務ハイライト (連結)

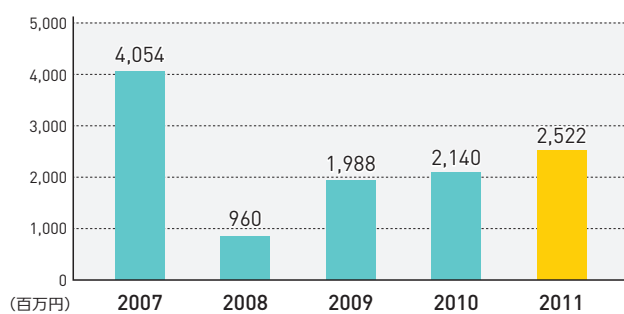
連結売上高



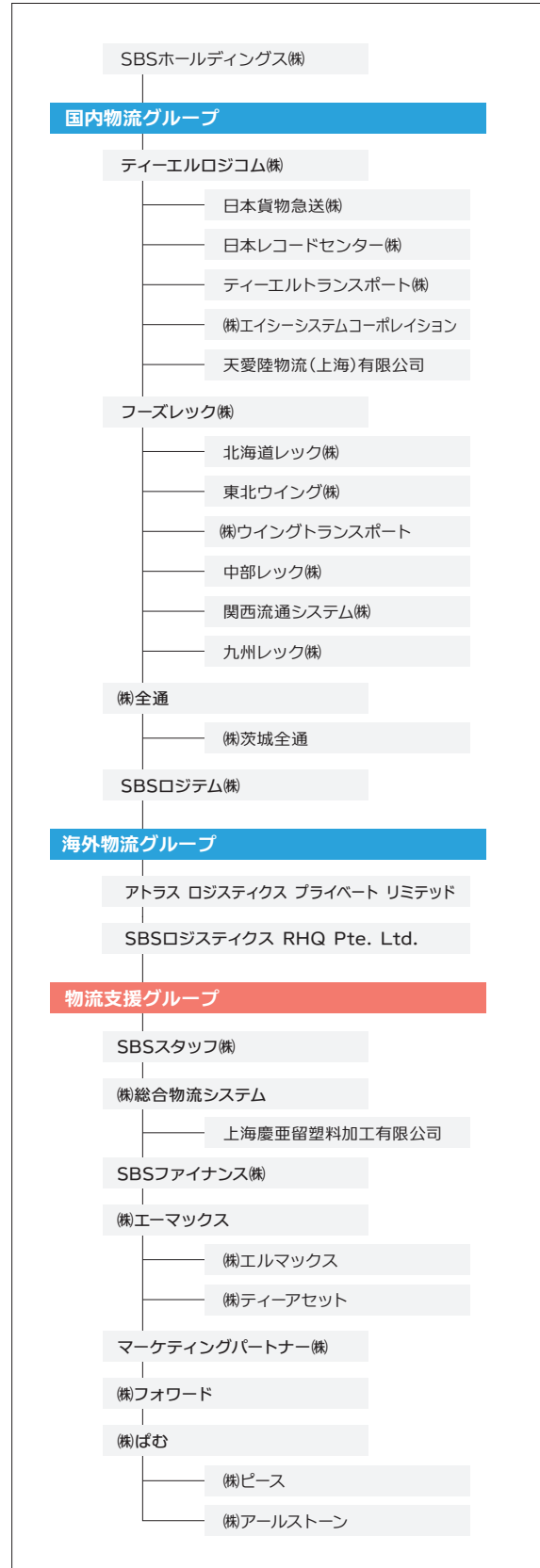
連結営業利益



連結当期純利益



SBSグループ企業一覧



※ SPCを除く(2012年9月末現在)

社会の期待に応え、 社会の期待に背かない CSR経営を着実に推進します。

はじめに、昨年3月に発生しました東日本大震災で被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、私たちSBSグループは本年12月に創業25周年を迎えます。即配事業からスタートし、総合的な企業間物流サービスをご提供できるまで成長できたのも、皆様のご支援の賜と感謝申し上げます。

物流はあらゆる産業にかかわりを持ち経済活動に不可欠な社会インフラです。大震災からの復興を果たすためにも、物流を担う私たちの重要性和責任の重さを改めて認識し、皆様からのご期待にお応えしてまいります。

一方、グローバル化・情報化の進展・企業不祥事の発生・地球温暖化等の環境問題などを背景に企業への要望が多様化し、求められる責任範囲も拡大しています。私たち

企業にはステークホルダー(株主、お客様、従業員など)の皆様との関係を重視し、社会との共生、発展を目指すCSR経営が求められています。

当グループはこの状況をしっかりと認識し、CSRの推進を図り、豊かな社会の実現に貢献してまいります。私たちはCSR経営の徹底に向けて『SBSグループ行動憲章』を制定し、グループの役員・従業員ひとり一人が守るべき行動基準としています。全員がこれを共有、自覚し、業務の中で日々実践するよう努めております。

2011年4月～2012年3月までの主な活動は、リスク対策の強化やBCP対策の見直し着手などコーポレート・ガバナンスの充実を図ったほか、車両事故防止を中心とした安全対策に引き続き注力いたしました。環境では2009年度のCO₂排出量10%削減を目標とする「環

境アクションプラン2013」を開始、一層の環境負荷軽減に取り組みました。また、環境活動の客観的な評価となる外部調査へ積極的に参加し、グループ内外に環境社会に対応する姿勢を示しております。

私たちは、「CSR経営とは、社会の期待に応え、社会の期待に背かないことである」と考えます。当グループが持続的発展を図るには、皆様とのコミュニケーションが不可欠です。皆様には私たちの活動に対するご意見やご感想をお寄せいただくとともに、今後もより一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

SBSグループ代表

鎌田 正彦



社会から信頼される グループ経営に努めます

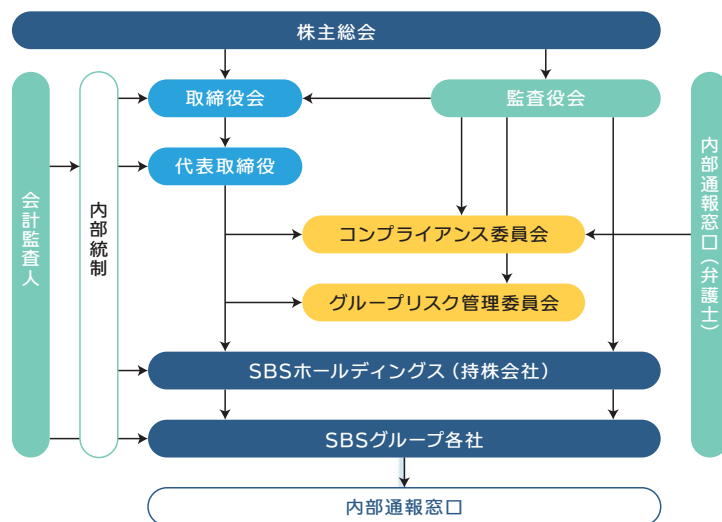
コーポレート・ガバナンスの考え方

SBSグループは、純粋持株会社であるSBSホールディングス(株)を中心に30社を超える事業会社で構成される企業集団としてグループ経営の推進が重要であると考えます。すなわち、当グループが社会から信頼を得て企業価値の継続的な向上を実現するためには、常にグループ全体の経営の効率性、健全性、透明性を確保しなければなりません。私たちは、この実現に向けて「SBSグループ行動憲章」に則り「内部統制」「コンプライアンス」そして「リスク管理」を経営の重要な柱としてコーポレート・ガバナンス体制の構築を進めてまいります。

SBSグループ行動憲章



コーポレート・ガバナンス体制 概要図



01 内部統制体制の整備

財務報告の透明性と信頼性を確保

2006年5月の新会社法施行や2009年12月期からの内部統制報告書提出義務化など、近年、社会は企業の財務報告に一層の透明性・信頼性を求めています。

SBSグループは、これを業務の効率化、リスク対応力の強化、グループ経営の推進等に伴う企業価値向上の好機と捉え、体制の整備を進めてまいりました。今後も、経営を支える重要なインフラのひとつである内部統制の維持・向上を図ることで、社会からの要請である「財務報告の透明性と信頼性」の確保に努めます。

03 内部通報窓口

企業としての自浄作用の確保のために

当グループでは、社員やパート・アルバイトなどの従業員を受付対象範囲とする「内部通報窓口」を設けています。この窓口は職制への相談がためられる場合に、従業員が直接相談・通報できるもので、社外の弁護士事務所などに設置しています。

また、相談・通報への対応にあたっては、プライバシー保護、不利益処分の禁止など相談者の保護が保証されています。当グループは、この窓口を適正に運営していくことで、コンプライアンスに関する問題を早期に発見・解決し、企業としての自浄作用がより有効に機能するよう努めています。

02 コンプライアンス委員会

法令違反の監視と再発防止に向けて

SBSグループは、「SBSグループ行動憲章」および「SBSグループ企業倫理規程」を制定し、法令遵守に留まらず企業倫理にまで踏み込んだコンプライアンス体制の整備とその推進に取り組んでいます。

グループ代表を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、グループを挙げてコンプライアンス体制の維持・構築及び社員への啓発活動等を行っています。また、内部通報窓口などによる法令違反の監視を行っているほか、違反発生時には調査、改善の指示などを行い再発防止の徹底にも努めています。

04 グループリスク管理委員会

リスク顕在化の未然防止に向けて

SBSグループは、株主、お客様、地域の方々などステークホルダーの皆様の信頼を確保し、企業の社会的責任を果たすため、「SBSグループリスク管理規程」を制定し、経営活動の脅威となり得るすべての事象についてリスク管理の徹底を図っています。

リスク管理システムを維持、運営するため、グループ代表を委員長とする「リスク管理委員会」を設置。グループ各社・各部門は、年間計画に基づき重点リスクを洗い出し、対策を講じます。また、その進捗状況を同委員会でチェックすることでリスクの顕在化の未然防止に努めています。



経営の最重要課題として 事故防止に取り組みます

安全に対する考え方

物流事業を主力とするSBSグループは、「安全最優先の原則」を
経営の最重要課題のひとつとして位置付け、グループ力を結集して事故防止に取り組んでいます。
グループ各社が日々行う安全管理・運行管理はもちろんのこと、グループ横断組織による
教育や指導を実施し、3千人のドライバーひとり一人に対して安全意識の浸透を図っています。
「輸送の安全確保」「交通事故防止」は私たちの責務であり、
その継続的な実現によってのみ、お客様そして社会からの信頼を獲得できるものと考えます。

1. 運輸安全マネジメントの徹底

SBSグループ全体の安全強化を図ることを目的として、SBSホールディングスに「リスク・安全統括部」を設置しています。

また、SBSグループ各社との連携や横通しを図るために、「SBSグループ運輸安全委員会」を設けて、グループ全体で協調した安全教育および事故防止に取り組んでいます。

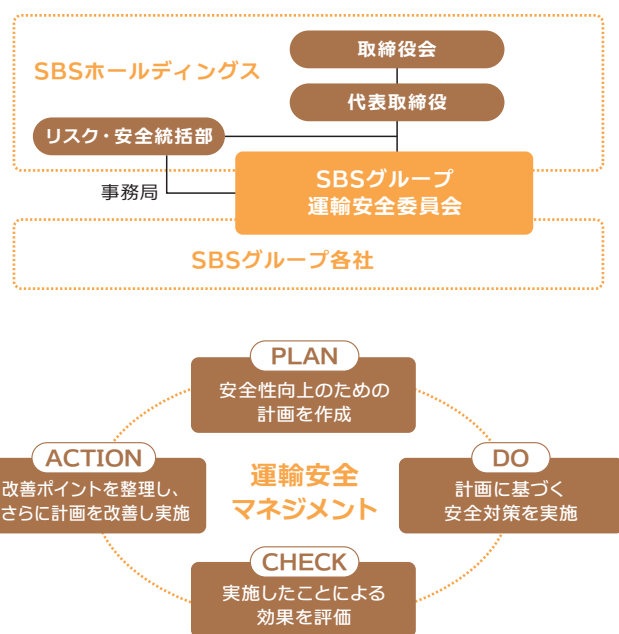
2. 社員への安全教育の徹底

社外講師の招聘、自動車メーカー様と協調した講習会の開催、社内講習会等の多角的な教育を通じて、安全意識の浸透と安全対策のための実務指導を行っています。

3. 事故防止施策の徹底

デジタルタコグラフ、ドライブレコーダーによる運転状況の掌握、事例分析による事故の再発防止、運行管理のレベルアップ等、基本動作の徹底による事故防止施策を行っています。

SBSグループ運輸安全マネジメント 体制図



安全への取り組み状況

	重点課題	取り組み状況
安全対策・事故防止	事故の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 重大事故 ● 車両事故10%削減 ● 労災・通災事故10%削減
	SBSグループ 運輸安全委員会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ● 発生1件 ● 前年度比で16%削減 ● 前年度比で3%削減 ● 運輸安全マネジメント、安全対策、社員教育、燃費改善対策、Gマークなどの認証取得を確認
	管理体制の 強化と徹底	<ul style="list-style-type: none"> ● 運輸系全事業所の巡回監査 運行管理、車両管理、労務管理、安全衛生管理等を確認 ● 安全性優良事業所の取得推進 運輸系143事業所中67事業所で取得(2011年12月末現在) ● デジタルタコグラフによる危険運転の確認と指導 (急加速、急減速、速度超過他) ● ドライブレコーダーによる危険状況の確認 ● 点呼時、ドライバーの体調確認の徹底 ● アルコールチェッカーによる確認の徹底 ● 運転指導員による添乗指導の実施
	就労管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画的な就業時間の管理 ● 計画的な休日の取得 ● 産業医面談制度 ● 睡眠時無呼吸症候群(SAS)等への対応
社員教育	研修制度	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全運転教育指導 ● 安全運転講習会 ● 運行管理のレベルアップ ● 運輸安全マネジメントセミナーの開催 (2回開催 延べ250名参加) ● 労務管理研修(2回開催*31名参加) ● 管理職コンプライアンス研修(1回開催*44名参加) ● メンタルヘルス研修(2回開催*52名参加) ● 階層別研修のコンプライアンス講話(7回開催*143名参加)
	免許・資格 取得支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 資格取得のための研修支援 ● 資格取得のための研修支援 ● 公共教育機関による研修への参加
		<ul style="list-style-type: none"> ● 運行管理者資格取得 ● 安全・衛生管理者資格取得 ● 救急救命受講者の拡大



SBSグループの安全管理教育

フーズレック

安全運転講習会の実施

事故の防止に努めて、確実な配送を実現します

フーズレックではチルド・フローズンを中心に、365日24時間体制で物流業務を担っています。適正な温度管理と輸配送時間の厳守を確実に実行できるように輸送品質の向上に日々努めています。事故による配送遅延や商品の破損を防止し、食品輸送事業者としての信頼確保を目的に、

実務をお願いしている各社様に集まって頂き、ドライバーの教育を積極的に進めています。車両点検、運転技能実車訓練、事故データ分析、危険予知、コンプライアンス、巻き込み・飛び出し事故等、一日を通じてドライバーの基本技量と必要な知識の修得を図ります。

座学Ⅰ・Ⅱ講習の様子



安全確保・法令遵守に必要な知識を学びます

体験Ⅰ講習の様子



飛び出しを実際に体験します



酒酔い状態を疑似体験します

実技Ⅰ講習の様子



運行車両の安全も万全を期します



運転技能の途中評価

実技Ⅱの様子 【ボックス・タイヤ合わせ】



所定のエリア内で車を切り返して、既定の位置に停止するまでの車両操作をチェックします

【狭路走行】



青と赤で囲まれた狭路を正しく走行できるかチェックします

【バック走行&車庫入れ】



障害物を避けながら車庫入れ操作を行います



講習内容	
座学Ⅰ	車両事故防止講習 1. 事故データ分析 2. 危険予知トレーニング
座学Ⅱ	コンプライアンス講習 &ペーパーテスト
体験Ⅰ	スケアード・ストレイト 1. 巻き込み事故再現 2. 飛び出し事故再現 3. 酒酔い状態疑似体験
実技Ⅰ	車両点検訓練
実技Ⅱ	運転技能実車訓練 1. 運転技能診断 2. ボックス・タイヤ合わせ 3. 狭路路走行 4. バック走行 5. 車庫入れ 6. バック切り返し



安全運転講習会参加者

講習会の終了



ひとり一人に終了証を授与

安全運転基礎研修

安全運転に欠かせない基本を学びます

定例的に開催しているエコ安全ドライブ研修を通じて、安全の必要性を再認識して、安全運転を身につけるための基礎研修を実施しています。この研修を通じてドライバーひとり一人が自らの復習を兼ねた学習を行い、さらに安全対策の新しい知識も取り入れます。プロドライバーの基本とし

て、挨拶・服装・車両美化を第一に、意識的な注意が必要となるトラックの死角や視野の限度、重大事故が発生しやすい時間帯や天候に応じて注意すべき点、環境対策を意識したエコドライブについて体系的に学びます。基本の積み重ねによって事故を防止し、安全に対するレベルを高めています。

安全運転基礎研修の内容

安全への考え方
SBSグループの環境対策
挨拶・服装・エコ運転・車両美化
トラックの死角、視野の限度
ドライブレコーダー映像によるヒヤリハット(実例)
前照灯の基礎知識
薄暮・夜間、天候に応じた運転
エコドライブ運転による効果の検証



管理職向けに危険予知(KYT)研修を実施しました

管理職自らが現場にKYTを定着させます

事故を未然に防ぐためには、危険箇所を事前に見極めて、危険を回避する行動が大切です。日々ドライバーに対して安全管理・事故防止を推進している管理職を対象にKYT講座を開設しました。当講座は自動車メーカー様の協力のもと、運転の適正診断・注意力診断、さまざまな想定状況下に含まれる危険箇所の見極めを演習

します。グループ討議を通じて、個人では気付かない危険箇所を知り、危険回避のための感性を高めます。管理職自らがKYTに対するより高い知識を吸収し、インストラクターとして現場への普及と定着を図ります。日常の安全運転に加え、危険を事前に回避する行動を身につけることで、一層の事故防止を達成していきます。

講習内容

	KYTとは何か、求められるものとは？
AM	運転適性検査
	注意配分力テスト
	例題による個人別演習
PM	例題のグループ討議と発表
	模範解答
	現場でのKYTの進め方



自動車メーカー様の講師による講習



グループで討議した危険回避を発表

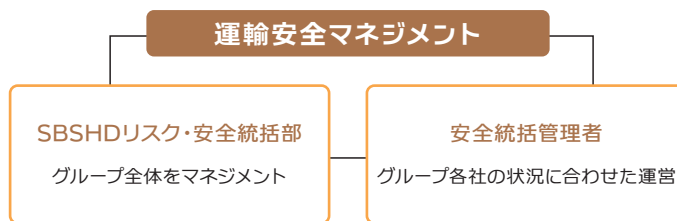


危険箇所を見極めて指差し呼称を実践

SBSグループの安全教育

人の育成が運輸安全マネジメントを支えます

SBSグループ共通の安全教育は、SBSホールディングスのリスク・安全統括部が企画運営します。グループ各社の安全統括管理者は各社の状況に合わせた研修を行い、相互で補完する体制を構築しています。



安全推進に関する主な教育研修

名称	内容	主な対象
運輸安全マネジメントセミナー	最新の運行管理情報の修得	管理者・運行管理者
労務管理研修	労務管理知識の修得	現場責任者
CSR・環境対策研修	SBSグループの取り組み	全社員
コンプライアンス研修	コンプライアンスの基礎知識	管理職・一般社員
現場リーダー強化研修	現場リーダーの能力向上	現場リーダー
エコ安全ドライブ研修	エコで安全な運転方法の修得	ドライバー
危険予知研修	危険予知能力の向上	ドライバー

長期無事故
ドライバー

グループの安全を支えるドライバー



ティーエルロジコム
割ヶ谷 清
無事故期間*43年

心がけていることは、健康管理を大切に、特に睡眠は十分に取ります。また交通ルールを厳守して防衛運転をすること。すなわち自分の身を守ることによって相手のことを知る。これが私の秘訣です。



日本貨物急送
菅原 二三男
無事故期間*38年

30年間無事故の先輩から、「タイヤ、ブレーキ、足廻りをしっかり点検・整備」のアドバイスを受けて、今日まで実行してきました。日々、荷物及び車をきれいにしておくことが大事だと思います。



日本レコードセンター
武井 博
無事故期間*18年

私は特別な運転の技術は持っていません。人や車の存在を察知し、安全に心掛け、常に人に見られている意識で運転している結果が、無事故運転&エコ安全ドライブにつながっていると思います。



ウイングトランスポート
仲佐 悟
無事故期間*14年

「安全運転」への思いやりが大事だと思います。現在は4t車に乗務しています。事故と違反はしないように心掛けています。これからの荷物を大切に扱い、事故ゼロで業務を遂行していきます。



中部レック
増田 昇治
無事故期間*32年

乗務をする際に、私の不注意や気の緩みで誰かの人生を変えてはいけないということです。相手の立場になった時のことを考えると、自然と身が引き締まり、安全運転につながります。



九州レック
中山 一弘
無事故期間*28年

他車の動き・天候・自車の状態・積荷の状況に気をつけています。周りに変化に気を配り、バック時も120%注意しています。一番大事なことは体調管理で、十分な睡眠を取るよう、心掛けています。

運輸安全マネジメントセミナー

新たな情報を取り入れて安全管理を推進

物流を主力事業とするSBSグループは、「安全最優先の原則」を経営の最重要課題のひとつとして位置づけています。当グループでは管理者・運行管理者を主な対象として運輸安全マネジメントセミナーを定期的に開催しています。物流業界に精通した外部講師により、運輸安全に関する最新の情報、安全を確保するためのポイント等を学びます。また、講師から見た当グループの改善ポイント等を指摘していただき、管理者自らが率先して安全管理を進めています。



最新の事例等を吸収して、安全確保のレベルアップを図ります

緊急時の対処訓練

人命確保のための備えを推進

SBSホールディングスでは、人命救助訓練、避難訓練、消火訓練、地震・暴風等の自然災害の体験を、近隣の本所防災館での研修を通じて実施しています。SBSグループの本社のあるオリナスタワーには、グループ各社の従業員も多数勤務しており、専門機関による訓練を受けることで緊急時の対応に備えています。



心肺蘇生方法を修得



消火器の取り扱い方を修得



暴風雨状態を体験

「安全最優先の原則」を第一線で支え、長期に亘って無事故を継続しています。日頃心掛けていることをお伝えします。



ティーエルトランスポート
永島 一夫
無事故期間*24年

運転中は平常心を保ち、気持ちにゆとりを持てるよう早めの行動を心がけています。また、公道をお借りして業務していることを念頭に、運転中は他車に「譲る運転」を実践しています。



北海道レック
山火 敬一
無事故期間*10年

「事故を起こさない強い気持ち」を常に持ち続けています。冬季の車間距離は夏の3倍取り、交差点は路面がミラーバーンになるため、特に歩行者には気を配り、すぐ止まれるように徐行運転をしています。



東北ウイング
斉藤 昭雄
無事故期間*36年

入社以来、病気ひとつせず健康を維持出来たからこそ無事故で来られたと思います。常に思いやりの心と、気持ちにゆとりを持ち、冬道は細心の注意を払い、慎重な運転を心掛けた結果だと思えます。



全通
広瀬 英彦
無事故期間*33年

若い時に利用したタクシーの「優良運転者証」にプロとしての誇りを感じて、私も「優良運転者証」を取得しました。運転ミスに気をつけ、余裕を持った仕事を心がけて、事故を防止しています。



SBSロジテム
神蔵 豊
無事故期間*12年

「だろろ運転」をしないこと、目視を徹底しています。車両に対しては優先意識を持たず、「思いやり」「譲り合い」を心がけ、歩行者に対しては威圧感を与えないよう、優しい運転を心がけます。



総合物流システム
川島 隆之
無事故期間*12年

事故を起こさないために「アクセルは控えめに、ブレーキは早めを」心がけています。事業所全員で無茶な運転をしない、油断をしないように声を掛け合っています。私の無事故継続の秘訣です。

※無事故期間について、創業からの歴史が浅い会社は比較的短い期間となっております。

持続可能な循環型社会の形成に貢献します

環境に対する考え方

環境問題がますます深刻化する中、企業活動における環境配慮は非常に重要な経営課題です。企業は経済的な価値を追求するだけでなく、環境保全に貢献していかなければなりません。私たちSBSグループは、環境保全に対する基本的な行動指針『SBSグループ環境方針』を策定し、これに則り計画を立案、実行しています。当グループの主力事業である物流を中心に「車両」「施設」「社員」の3つの経営資源に着目して環境負荷の軽減に取り組み、持続可能な社会の形成に貢献してまいります。

SBSグループ環境方針

基本理念

SBSグループは、環境問題が地球的規模を持つと共に、次世代以降においても重要な問題であるとの認識を堅持いたします。社会的責任を全うした健全な事業活動を通じ、経済と環境が両立する持続可能な循環型社会構築の一助となるよう努力いたします。

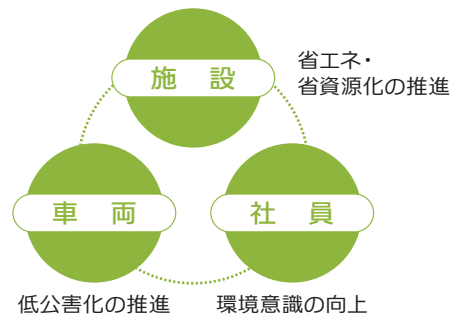
基本方針

1. 資源・エネルギーの有限性を認識した上で、有効利用に努めてまいります。
2. 廃棄物の発生抑制・再利用・リサイクル及び適正処理を実施いたします。
3. 国内外の環境関連法規を遵守いたします。また、グループ各社は同意した協定等を遵守いたします。
4. 環境教育・啓発活動を通じて、全社員が本方針を周知徹底、実践いたします。
5. 直面した環境問題に対し、グループ各社の垣根なく、能動的かつ機動的に対応してまいります。

環境対策の推進体制



環境対策3つの柱



環境アクションプラン2013

環境対策については、2009年度CO₂排出量を基準として2011年度から2013年度までの3カ年で、8,500t-CO₂を削減する「環境アクションプラン2013」を作成、取り組みを進めてまいります。

CO₂の全体排出量の削減目標
2009年度比8,500t-CO₂削減(10%減)

重点施策	数値目標	CO ₂ 削減量
エコドライブの徹底	年3.6%燃費改善	7,700t-CO ₂
CNG車の導入	新規に39台導入	400t-CO ₂
施設での使用エネルギー量削減	年1%以上の削減	400t-CO ₂

環境への取り組み状況

重点課題	取り組み状況
CO ₂ 全体排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ●2011年度総排出量：71,180t(前年度比8%削減) ●車両系：57,895t(前年度比9%削減) ●施設系：13,285t(前年度比4%削減)
車両	効率化 <ul style="list-style-type: none"> ●エコ安全ドライブの推進 ●燃費管理の徹底と改善フォロー ●東京都貨物輸送評価制度への参加による燃費改善の促進
	低公害化 <ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮車両(低公害車)の導入 CNG車、LPG車、ハイブリッド車など ●長距離輸送でのモーダルシフトの実施(鉄道・船舶) ●エコタイヤ、リトレッドタイヤの利用率8.2%(本数ベース) ●リヤカー付電動自転車の活用
施設	省エネ化 <ul style="list-style-type: none"> ●冷暖房時の温度管理の徹底 ●LED照明・省電力型照明の導入、照明の間引き ●空調制御機器、人感センサーの導入 ●トップライト(天窗)の活用 ●緑のカーテンの実施 ●エネルギー統合管理システムの導入 ●デマンド監視システムの導入
	省資源化 <ul style="list-style-type: none"> ●グリーン購入ガイドラインの実施 ●廃棄物のリサイクル推進
社員	環境教育 <ul style="list-style-type: none"> ●エコ安全ドライブ関連研修 累計43回 552名参加 ●「SBSグループの環境対策を知ろう」研修会の開催 ドライバーおよび新入社員向けに3回実施 67名参加
	環境啓発 <ul style="list-style-type: none"> ●全従業員向けCSR Newsの発行(月刊)

安全・環境・品質関係の認証取得状況

SBSグループでは、Gマーク、ISO9001・14001、グリーン経営認証、エコステージなどの安全、環境や品質に関する外部認証を取得し、より効果的な環境保全活動に取り組んでいます。

認証	社名(取得事業所数)
Gマーク (安全性優良事業所)	ティーエルロジコム(19)、日本貨物急送(4)、ティーエルトランスポート(5) フーズレックグループ(10)、全通(28)、総合物流システム(1)
ISO9001 (品質マネジメントシステム)	ティーエルロジコム(1)、日本貨物急送(11)、フーズレックグループ(40)、全通(6)
ISO14001 (環境マネジメントシステム)	ティーエルロジコム(4)、日本貨物急送(11)、日本レコードセンター(3)、全通(5)、総合物流システム(2)
グリーン経営認証	ティーエルトランスポート(3)、フーズレックグループ(1)
エコステージ1	ティーエルロジコム(2)



CO₂ 排出削減

SBSグループ

車両の燃費改善研修(エコ安全ドライブ研修)

環境・安全・経費の三方よし!を実践します

研修内容	
1日目 (座学)	エコ安全ドライブリーダーの役割
	環境問題を考える
	危険予知トレーニング
	交通事故の撲滅に向けた取り組み
	グループ討議ほか
2日目 (実技)	トラックの死角を確認
	走行研修1(通常走行)
	エコドライブ手法について
	走行研修2(エコドライブ)
	研修レポート作成
	終了証の授与

SBSグループでは環境への配慮に加え、事故の防止、燃料資源の節約を推進するために、「エコ安全ドライブ研修」を継続して推進しています。当研修は、自動車メーカー様のご協力により、実践的かつ専門性の高いカリキュラムで構成し、各社から選

抜されたドライバーや運行管理者を「エコ安全ドライブリーダー」として育成します。受講者は、現場に戻って職場のドライバーへの普及活動を行います。今期12回開催し180名が受講しました。現在までに累計43回開催し552名が受講しています。



①受講生は運転中の状況の中に潜む危険を察知して安全運転のポイントを発表します②トラックの死角を実際に確認します③エコドライブ研修スタート④メーカーの担当から直接エコドライブの技術指導を受けます⑤エコドライブによるCO₂の削減を確認します



SBSロジテム

デマンド監視機器とLED照明の導入

従業員全体で節電活動が行いやすくなりました

SBSロジテムは、本拠地であるロジテムビルにデマンド監視機器およびLED照明を導入しました。デマンド監視機器は、電気の使用状況を目視で確認できるスマートクロック&スマートメーター、電気の使用状況をまとめたレポート機能で構成しています。スマートクロックは、室内時計の周囲を、青・黄・赤に変化させるこ

とで、電気の使用状況を知らせます。何気に眼が向きやすい室内時計を使うことで、従業員全体でタイムリーに電気の使用状況を知ることができるようになりました。予定している電気の使用量を超えそうな黄色表示になったときは、余剰な電気を切るなど、従業員全体で節電に取り組むようになりました。さらに、レポー

ト機能により電気の使用状況を時間帯別に確認することで、計画的に節電活動を行うことができました。また、コールセンターなど、運営時間が比較的長時間になるフロアについてはLED照明に切り替えて、さらなる省電力化を図りました。こうした取り組みによって従来と比べ21%の節電を実現しています。



スマートクロック



スマートメーター



LED照明に切り替えたフロア

最新の野田吉春物流センター

環境にやさしく、災害に強い大型物流センターを新設

首都圏への主要物流拠点エリアであり、国道16号線に直接出入りができる好立地に、フロア面積約1万坪の大規模な倉庫スペースを有する最先端の高性能物流センターを開設しました。環境にやさしく災害につよい物流施設を目指して、全館LED照明と太陽光発電システムの採用、耐震構造による建設と停電時に備え非常用発電機を設置しています。CO₂の排出抑制、上昇傾向にある電気料気や電力不安への対応、巨大地震への対策、効率的な物流機能を実現したセンターです。

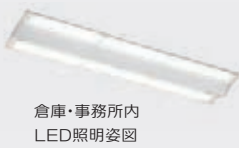


国道16号線側からの野田吉春物流センター

LED照明

全館LED照明採用により低ランニングコスト・省エネを実現

消費電力が蛍光灯に比べて少なく、省エネ性の高いLED照明を全館に採用します。LED照明器具は長寿命であるため、ランプ交換時に発生するテナント様の荷物移動の頻度を最小限に抑えます。



倉庫・事務所内LED照明姿図

	蛍光灯	LEDランプ
平均照度※1	760 lx	753 lx
消費電力	65 W	49 W※2
年間電力量	7,020 kWh	5,292 kWh

※1: 水平面照度 ※2: 平均消費電力

- 40,000時間の長寿命
- 初期照度補正機能を搭載
- 蛍光灯とほぼ同等の明るさ
- 虫が寄り付きにくい

※メーカーホームページ掲載のデータを参考に資料を作成しています。

発電機

テナント様向け非常用発電機を標準装備

東日本大震災での経験をふまえ、災害による停電、電力不足による計画停電に備え、停電時も倉庫の機能を最低限生かすため、テナント様向けに非常用発電機を標準装備しています。

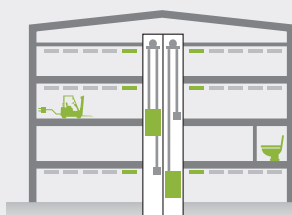


発電機姿図



発電機キューピクル内部姿図

[停電時も以下の設備が使えます]



- 照明の20%を点灯できます
- 荷物用エレベータ2台
⇒ 荷が降ろせます
- フォーク用コンセントが使えます
- トイレが使えます

※発電機は燃料補給なしで約24時間運転が可能です

野田吉春物流センター計画概要

敷地概要	
所在地	千葉県野田市吉春溜下22-1
敷地面積	17,050.21㎡(5,157.6坪)
建蔽率	60%(角地等の緩和70%)
容積率	200%
緑地面積	1,835.87㎡
緑地率	10.25% > 10%

建物概要	
構造	RC・S造 耐火建築物
階数	地上4階
建築面積	11,581.63㎡(3,503.44坪)
延床面積	31,634.93㎡(9,569.56坪)
最高高さ	29.11m
天井有効高	1F:6.5m/2F~4F:5.5m
耐荷重	1F:2.5t/㎡ 2F~4F:1.5t/㎡
容積率	186.32% < 200%
建蔽率	69.86% < 70%
竣工予定日	2012年9月末日



上空(センター裏側)から見た野田吉春物流センター

野田吉春物流センターの詳細の情報は、ティーエルロジコム(株)のウェブサイトからご覧いただけます。

→ <http://www.tl-logicom.co.jp/noda-yoshiharu/>

全通本社の省エネ活動

省エネの工夫をひとつ一つ積み上げ

全通では、従来からISO14001、9001の取得を積極的に進めて、環境および品質を重視した運営に取り組んでいます。LPG車・CNG車の導入によるCO₂排出の削減・環境汚染対策、消費電力の抑制、廃棄物の削減等の工夫を積み重ねています。全通本社では各人が身近で行える環

境対策をひとつ一つ積み上げることによって、2011年度は2010年度に比べて、消費電力を20,760Kwh(20%)抑制しました。また、グリーン購入も推進し、2011年度の事務用品購入のうち54%はグリーン購入となっています。



ISO14001、ISO9001を取得して、環境マネジメント・品質マネジメントに取り組んでいる全通本社

全通本社の節電・環境対策

1 緑のカーテンによる日射の遮蔽と蒸散による冷却効果

2 室温管理の徹底(夏季28℃)

3 LED照明による省電力化

4 休憩時の一斉消灯

5 よしずによるエアコン室外機の温度上昇抑制(冷房効率のアップ)

6 エコキャップの回収運動

7 人感センサーの活用

8 グリーン購入の推進



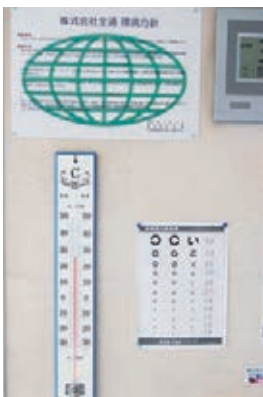
眼にも涼しく、冷却効果のあるゴーヤのカーテン



室外機周辺の温度が低いほど、空調機器が効率の良い運転となり、室外機への日射防止によって周囲温度が下がれば、節電につながります。(出典:東京電力)



エコキャップの回収とよしずによる室外機の温度上昇の抑制



室温管理の徹底と環境方針



LED照明による省電力化



休憩時の一斉消灯



人感センサーの活用

静脈物流事業で循環型社会の形成に貢献しています

地球資源の保護、環境負荷軽減が当事業の社会的な使命です

道路脇に捨てられた空き缶、ペットボトル、使い捨て容器類やマンガ雑誌。私たちの住む街では見慣れた光景です。今、地球環境の悪化、資源の枯渇などから物を一方的に消費、廃棄するのではなく可能な限り再び資源として使う循環型社会への転換が進んでいます。

私たちSBSグループは、主力事業である物流を通して循環型社会の形成に貢献しています。生産された製品や商品を必要とする企業や家庭に届けるという事業に加えて、企業から出る廃棄物やゴミを収集・運搬し、再び資源に戻すという事業を行っています。

これは、人間の心臓から動脈を通して全身に届いた血液が静脈を経由して再び心臓に戻る血液の流れに例えることができます。ここから製品や商品の輸送を動脈物流、廃棄物やゴミの回収を静脈物流と呼び、一つの輪になることで循環型社会が形成されます。

当グループの(株)総合物流システムは、廃棄物やゴミの収集・運搬を専門に行う静脈物流事業を行っています。また、自社で中間処理工場を持ち、廃棄物を分別、解体、破碎、圧縮などの処理を行い、再び素材や原料に戻す、言わば、再生資源製造業も営んでいます。

特徴は、素材として再利用できないものは工業原料やエネルギーとして活用するなど徹底したリサイクルを行うことで、埋め立てなどの最終処分を極力行わないゼロ・エミッション実現に取り組み、資源保護、環境保護に貢献していることです。

※ゼロ・エミッションとは、廃棄物をリサイクルすることで最終的に埋立処分となる廃棄物を排出しないこと

	東雲事業所	横浜事業所
許可番号	東京都1320014605	横浜市5620014605
所在地	江東区東雲2-10-31	横浜市金沢区幸浦2-2-5
処理方法	破碎(4.5t/日) 圧縮(117t/日)	破碎(107t/日) 圧縮(140t/日) 溶融(1t/日)
処理対象	・廃プラスチック・紙くず・金属くず ・ガラスくず・コンクリートくず ・陶磁器くず	・廃プラスチック・紙くず・木くず ・繊維くず・金属くず ・ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず ・がれき類
保有設備	50tトラックスケール	40tトラックスケール、フロンガス回収装置、磁気記録媒体破壊装置



東雲事業所



横浜事業所

OAリサイクルセンターの概要(情報保護体制)



OAリサイクルライン



①磁気照射による電磁データの物理的破壊
最大発生磁界6,000Oe(エルステッド)の磁気照射によって磁気データの物理的破壊を実施いたします。
※MO、CD-Rom、CD-R、DVD等光学媒体は別途破碎処理を実施いたします



②クラッシャー装置によるHDDの物理的破壊



許認可名称

許認可団体

一般貨物自動車運送事業許可	東京都、神奈川
産業廃棄物処分業許可	東京都、横浜市
一般廃棄物収集運搬業許可	都内各區
産業廃棄物収集運搬業許可	首都圏および中部圏各自治体・政令市等
第一種フロン類回収業登録	東京都、神奈川県
解体工事業登録	神奈川県
古物商許可	東京都、神奈川県

認定資格名

対象事業所

ISO14001		東雲・横浜事業所
プライバシーマーク		東雲・横浜事業所

静脈物流事業の詳細な情報は、(株)総合物流システムのウェブサイトからご覧いただけます。

→ <http://www.soubutsu.co.jp/>

社会との より良い調和を図ります

社会に対する考え方

SBSグループは、持続可能な発展のために、株主をはじめ、お客様、従業員、取引先、地域社会などのステークホルダーの皆様と健全な関係の維持・発展に努めています。たとえば、均等な雇用機会の提供、従業員が悩みを相談できる窓口の設置、災害時の支援活動、地域でのボランティア活動、住民との交流、お客様の期待に応える高品質なサービスの提供……。SBSグループは、社会を構成する一員として、ステークホルダーの皆様との相互理解の促進や貢献活動に努め、社会とのより良い調和を図ってまいります。

1. お客様とともに

私たちの大切なお客様は、安定した物流品質を求めています。ISO9001品質マネジメントシステムの取得、環境面においてお客様への貢献を目指すためにISO14001環境マネジメントシステムの取得、さらに環境対策車両の導入を推進しております。今後とも、お客様へ高い品質の物流を提供し信頼に応えてまいります。

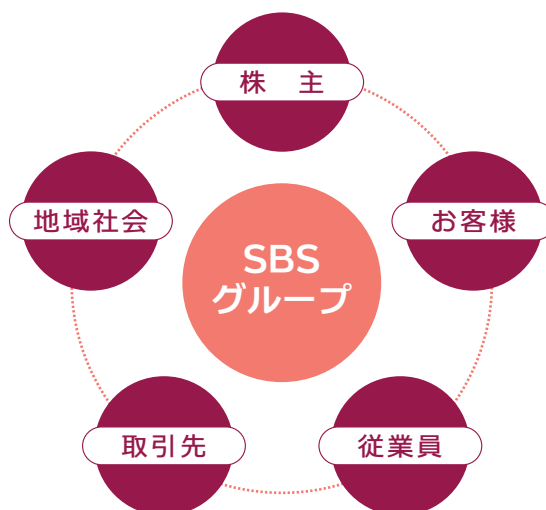
2. 従業員とともに

「従業員の育成」および「従業員の自己実現」を支援するためにキャリアプランに応じた「教育研修制度」、安全に配慮した「職場環境の整備」、安心して働くための「労務管理制度」を推進し、従業員が意欲的に働ける環境の構築を進めております。

3. 社会貢献

私たちの事業は広く社会との協調の中で営まれております。東日本大震災への支援、環境政策への対応、障がい者雇用等、地域社会のみならず社会全体への貢献と発展に寄与すべき活動を推進してまいります。

SBSグループと社会とのかかわり



社会とのかかわり状況

	重点課題	取り組み状況
お客様	品質向上への取り組み強化	<ul style="list-style-type: none"> ● ISO9001、ISO14001、安全性優良事業所等の認証取得 ● お客様主催の、安全対策・環境対策への参加
	スキルアップ・自己実現 健康管理の充実 就業環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ統一研修の推進 ● 免許・資格取得の推進 ● 産業医による健康相談 ● メンタルヘルスケア体制 ● 災害時の安全対策・訓練 ● 緊急時の安全対策・訓練
従業員	地域貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 近隣清掃活動 ● 交通混雑時の横断歩道誘導
	エコキャップ運動	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ全社での回収活動(2012年9月末) 累計 683,991個回収 CO₂ 5,386t削減 854人にワクチン提供
	障がい者への支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用の促進と支援活動
社会貢献		

日本貨物急送 SBSスタッフ 日本レコードセンター

近隣清掃

清掃活動を通じて地域に貢献

事業拠点を有する地域に対しては、車両の出入りや従業員の通勤等で、ご負担をおかけすることもあります。地域の一人として、近隣の皆様への貢献の気持ちを込めて、自発的に近隣清掃を行っております。近隣の皆様から感謝の言葉をいただくこともあり、地域との交流にも役立っています。



日本貨物急送



SBSスタッフ



日本レコードセンター



ティーエルロジコム

SBSロジテム

関東運輸局から感謝状を授与

震災支援で表彰を受けました

昨年の東日本大震災時に顕著な支援活動を行った物流事業者に対し、関東運輸局は感謝状の贈呈を行いました。当グループにおいて、ティーエルロジコムとSBSロジテムが表彰の対象として選ばれました。



感謝状を受取ったティーエルロジコム



SBSロジテムへの感謝状

ティーエルロジコム

SBSロジテム

安全標語大賞で金賞をダブル受賞

トラック協会城東支部の事故防止活動で

東京都トラック協会城東支部が事故防止活動の一環で行っている安全標語大賞。その表彰でSBSグループの2名が金賞を受賞しました。地域の事故防止活動にも積極的に参加して、トラック輸送の安全確保に努めています。



ティーエルロジコム
稲葉部長

ただいまと
おかえりなさいは
家族と交わす
安全確認



SBSロジテム
斉藤課長

アクセルの
踏み方ひとつ
エコが事故

SBSロジテム

横断歩道での歩行者誘導

歩行者の安全を守ります

東京都トラック協会城東支部に加盟する皆様と共に「交通事故ゼロの日運動」として、横断歩道での歩行者誘導を行っています。場所は交通が混雑する江東区の南砂四丁目交差点。毎月の定例日、小学生や高齢者の方、自転車等が多く、車両の混雑とも重なる16時～17時にかけて行います。近隣の物流企業が連携して交通安全対策に努めることで、少しでも地域に貢献しようとする取り組みです。

横断歩道の各所で見守ります



SBSグループ

エコキャップの回収運動

社会貢献と環境への配慮を兼ねて

SBSグループでは、2009年秋からエコキャップの回収運動を続けています。数人の賛同者からの輪が広がり、今ではグループ全体で回収運動が行われています。その結果、累計で、68万個を回収。854人の子どもたちにワクチンを贈ることができ、CO₂の排出も5t抑制することができました。日々の積み重ねが大きな社会貢献につながっていきます。



エコキャップ収集情報

2012年9月30日現在

- 683,991個 回収達成!
- 854人の子どもへワクチンを提供できました。
- CO₂排出削減5,386kg

皆様のご協力に感謝!!

SBSグループ環境対策検討会

SBSスタッフ

使用済み切手で動物愛護に協力

SBSグループ全体で応援しています

SBSスタッフはCSR活動の一環として、使用済み切手を動物愛護団体である公益社団法人日本動物福祉協会(JAWS)にお渡ししました。同協会は動物飼育環境の改善、捨て犬・捨て猫等の防止活動、捨てられた動物の新しい飼い主探し、災害時の動物保護等を行っています。こうした動物愛護活動に使用済み切手が役立てられています。SBSスタッフは、グループ全体に切手回収の賛同者を募って、動物愛護活動への協力を進めています。



日本動物福祉協会
(JAWS)



グループの賛同者から集められた使用済みの切手

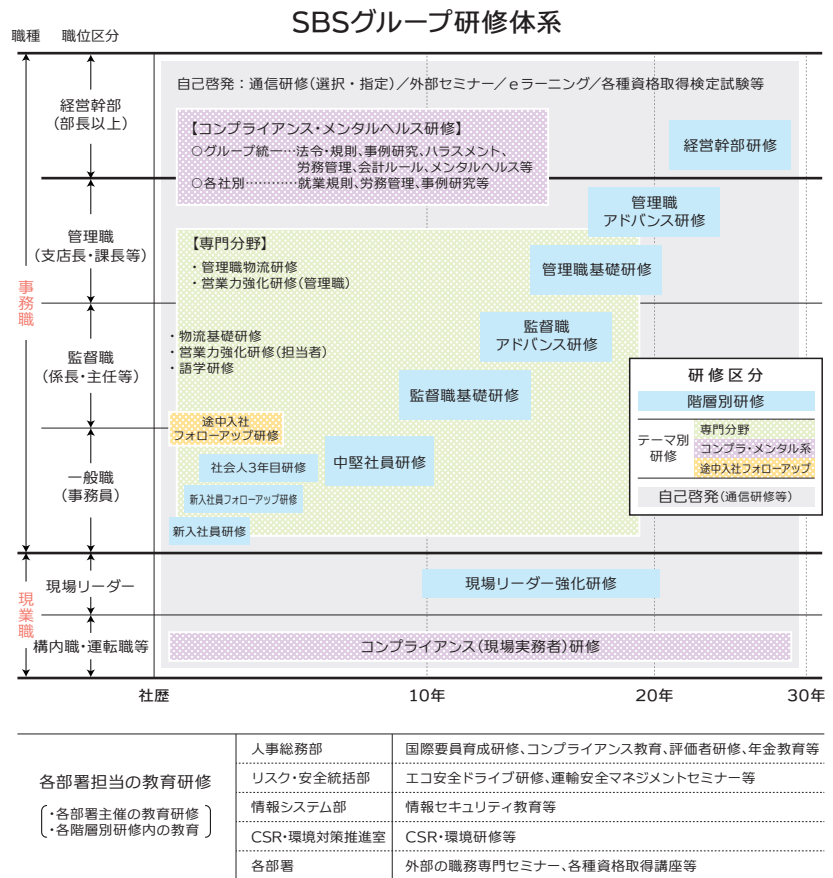
SBSグループの研修制度

生涯を視野に社員を育成します

SBSグループ研修はグループ社員全員を対象に、職務遂行能力の向上を図り、グループの成長、発展に貢献できるグローバル人材の育成を念頭に置いています。そのため、社員の生涯教育を通じて、次のような人材の育成を図ります。

- 1 自らビジョンを掲げて行動できる「実行力」のある人材
- 2 高度な専門性をもった「知恵力」のある人材
- 3 新しいものを生み出していける「開発力」をもった人材
- 4 常に「お客様志向の目線」をもった人材
- 5 公正・無私・法令遵守の「強い倫理観」をもった人材

以上の点を実現していくために、階層別・テーマ別のカリキュラムに、自己啓発を組み合わせた研修を進めています。



CSR Newsを毎月発行しています

安全・環境・社会とのかかわりに関する最新の情報を伝えます

SBSグループではCSRに関する情報を共有するためにCSR Newsを発行しています。2011年2月に社会的に強い関心を持たれているエコ関係の情報をまとめたECO Newsを発行し、2012年1月からエコ関係の情報に安全や社会に関する情報も加えCSR Newsとしました。全従業員に安全・環境・社会とのかかわりに関する情報を分かり易く伝えるために、実感の持てる身近な話題について、ビジュアルに、A4サイズ1枚にまとめています。



メンタルヘルス研修を開催

メンタルヘルスに対する理解を深めます

メンタルヘルスに対する正しい理解と、職場での注意点を知らるために、「心理カウンセラー」による研修を行っています。職場での人間関係、家庭や生活面で生じるストレスが蓄積することで発生する不安症や、うつ病を回避する方法について、事例を通じて学びます。正しい理解のもと、従業員が意欲的に働ける職場作りを目指します。



心理カウンセラーによるメンタルヘルスの講義



事例による研修を通じて理解を深めます





【問い合わせ先】

SBSホールディングス株式会社

IR・広報部 CSR・環境対策推進室

〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3

 03-3829-2240 /  03-3829-2822

 <http://www.sbs-group.co.jp/>

